

<概要 / Course Content Summary>

本コースでは同志社ビジネススクール（崔）と GO ON の 6 名の伝統工芸職人・経営者（中川・八木・細尾・松林・辻・小菅）による緊密な産学連携に基づいて理論化を進めている最新の工芸論を紹介する。その目的は GO ON メンバーの工芸についての知見と今後の展望を発信・共有し、国内外の工芸事業のさらなる活性化を促すことである。さらに、経営実践領域への貢献に留まらず、伝統工芸の学術的探求と知識体系の高度化を目指し、独創的な工芸理論の構築もコース目標と定めている。

<到達目標>

本コースは伝統工芸の本質を理解し、独創的な工芸ビジネスの構想を試みながら、具現化および実践へとつなぐ総合的経営感覚・感性と企業家精神を養うことを到達目標としている。本コースは DBS と GO ON によって提唱される京都工芸論の哲学および同志社の教育思想の根幹を成す「良心教育」をもとに、工芸経営倫理、工芸イノベーション、工芸リーダーシップの涵養を総合的ゴールと定め、具体的な目標としては、

1. 倫理的経営：経営倫理の重要性を認識し、持続可能性を追求する経営組織の構想と運営能力
2. イノベーション：多様な事業概念と経営理論とツールの理解能力
3. イノベーション：事業創出と運営における独創的アプローチの創出能力
4. リーダーシップ：適切な意思決定を実行するための論理的思考と実践能力
5. リーダーシップ：独創的な問題発見能力と問題解決能力

の修得と定めている。

<授業計画 / Session Schedule>

実施回 / Session	内容 / Contents
1. 4月20日（日） 90分	オリエンテーション・イントロダクション DBS 崔裕真担当・リード 講師陣紹介（GO ON×DBS） 授業の目的・目標、各回の進行方法、コーステキストや参考文献、推薦図書の紹介、コース課題、成績評価の詳細説明 + 受講生の自己紹介
2. 4月27日（日） 90分	基礎知識の体得：工芸について <ul style="list-style-type: none"> • 伝統工芸の概念：定義と理論 • 工芸論の比較：国内、日本と欧米・アジア • 京都の伝統工芸について：その歴史と特性 • GO ON のすべて：2012 年以来 • 工芸論 by GO ON DBS の概要 • 工芸論の目標と展望

実施回 / Session	内容 / Contents
<p>3. 5月18日(日) 90分</p>	<p>工芸論 理論編1：茶筒工芸 GO ON 八木氏・中川氏担当 (DBS 崔補佐)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 伝統工芸とは何か「概念と定義」 <ul style="list-style-type: none"> → 茶筒工芸の世界から考察する工芸 → 茶筒の本質、特性、そして可能性 • 工芸に必須となる共感とは何か「共感性」 <ul style="list-style-type: none"> → 主客分離ではない相互主観 → ビジネスではない「商い」を実践する工芸の価値創造 • 工芸が提案する社会：工芸都市・京都 <ul style="list-style-type: none"> → 工芸論が提示するものづくりの有り様 → 工芸の哲学が必須とするWiEの概念 → 工芸が提示する工芸都市の青写真 • 受講生と討論：「作り手と使う手が共に価値創造を行うエコとサステナビリティの世界」
<p>4. 6月15日(日) 90分</p>	<p>工芸論 理論編2：西陣織工芸 GO ON 細尾氏・八木氏担当 (DBS 崔補佐)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 伝統工芸とは何か「概念と定義」 <ul style="list-style-type: none"> → 西陣織工芸の世界から考察する工芸 → 西陣織の本質、特性、そして可能性 • 工芸が実現する美とは何か「美意識」 <ul style="list-style-type: none"> → 日本固有の哲学と思想の根幹となる美 → 京都工芸が発信する世界が共有する人類共有の美意識 • 工芸が導出するイノベーション：直感と直観 <ul style="list-style-type: none"> → 工芸論が提示するものづくりの有り様 → 工芸の哲学が追求する感性を超越する直観能力 → 工芸が提示する伝統工芸事業の今後の戦略 • 受講生と討論：「京都の美しい、は世界でどこまで通用し、今後何を生み出せるか」
<p>5. 7月20日(日) 90分</p>	<p>工芸論 理論編3：木工芸 GO ON 中川氏・松林氏担当 (DBS 崔補佐)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 伝統工芸とは何か「概念と定義」 <ul style="list-style-type: none"> → 木工芸の世界から考察する工芸 → 木工の本質、特性、そして可能性 • 工芸の身体性とは何か「身体性」 <ul style="list-style-type: none"> → 心身二元論ではない心身一元論、手作業・脳作業 → 身をもって覚える、実践する工芸の価値創造 • 工芸に内在する多面性・普遍性 <ul style="list-style-type: none"> → 工芸論が提示するものづくりの有り様 → 工芸の哲学が投射する倫理観 → 工芸のグローバルな可能性の考察 • 受講生と討論：「手で考える、全身で取り組むこれからのものづくりと生き方」

< 授業計画 / Session Schedule >

実施回 / Session	内容 / Contents
<p>6. 8月3日(日) 90分</p>	<p>工芸論 理論編4：朝日焼工芸 GO ON 松林氏・小管氏担当 (DBS 崔補佐)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 伝統工芸とは何か「概念と定義」 <ul style="list-style-type: none"> → 朝日焼工芸の世界から考察する工芸 → 朝日焼の本質、特性、そして可能性 • 工芸が定義・創造する時間・空間「可塑性」 <ul style="list-style-type: none"> → 素材へのこだわりと時空超越の概念・感覚 → モノと人間のお付き合い：相互尊重・二項動態 • 工芸が促す新たな世界観：共存共生 <ul style="list-style-type: none"> → 工芸論が提示するものづくりの有り様 → 工芸の哲学は既存の唯物論と精神論と異なる → 工芸が提示する伝統工芸事業の今後の戦略 • 受講生と討論：「人だけでなくモノを大切にし、丁寧にお付き合いするとは如何なるものか」
<p>7. 8月24日(日) 90分</p>	<p>工芸論 理論編5：京金網工芸 GO ON 辻氏・八木氏担当 (DBS 崔補佐)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 伝統工芸とは何か「概念と定義」 <ul style="list-style-type: none"> → 京金網工芸の世界から考察する工芸 → 京金網の本質、特性、そして可能性 • 意識と無意識が交差・併進する「無我夢中」 <ul style="list-style-type: none"> → 自意識と無意識が共存する工芸実践の場 → 新たな自我の発見・自己省察を実現する工芸 • 工芸が可能にする社会貢献：人づくり <ul style="list-style-type: none"> → 工芸論が提示するものづくりの有り様 → 工芸の哲学は人材の概念を刷新する → 工芸が提示する伝統工芸事業の今後の戦略 • 受講生と討論：「僕が伝統工芸に出会ってから今までの働きと生き甲斐について」
<p>8. 9月21日(日) 90分</p>	<p>工芸論 理論編6：竹工芸 GO ON 小管氏・細尾氏担当 (DBS 崔補佐)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 伝統工芸とは何か「概念と定義」 <ul style="list-style-type: none"> → 竹工芸の世界から考察する工芸 → 竹工芸と問屋事業の本質、特性、そして可能性 • 工芸で磨く「目利きと洞察力」 <ul style="list-style-type: none"> → 時世と商流の的確な感知を必須とする工芸事業 → 持続的かつ俊敏な変革こそ工芸事業 • 工芸が問い続ける経営能力：両軸思考 <ul style="list-style-type: none"> → 工芸論が提示するものづくりの有り様 → 工芸の哲学は用の美と芸術性を同時に追求 → 工芸が提示する伝統工芸事業の今後の戦略 • 受講生と討論：「夢見るだけの経営者はダメ、工芸事業は儲かる仕組みづくりも大事」
<p>9. 10月5日(日) 90分</p>	<p>工芸論 実践事例編1：茶筒工芸 GO ON 八木氏・辻氏担当 (DBS 崔補佐)</p> <p>茶筒工芸のイノベーション事例研究 八木氏リードによる伝統工芸の現場事例と現場体験：工芸論の構想と理論化に至る具体的な事例分析 → 体験学習を経てこれからの工芸の洞察と提案</p>

< 授業計画 / Session Schedule >

実施回 / Session	内容 / Contents
10. 10月19日(日) 90分	<p>工芸論 実践事例編2：西陣織工芸 GO ON 細尾氏・松林氏担当 (DBS 崔補佐)</p> <p>西陣織工芸のイノベーション事例研究 細尾氏リードによる伝統工芸の現場事例と現場体験：工芸論の構想と理論化に至る具体的な事例分析 → 体験学習を経てこれからの工芸の洞察と提案</p>
11. 11月16日(日) 90分	<p>工芸論 実践事例編3：木工芸 GO ON 中川氏・小管氏担当 (DBS 崔補佐)</p> <p>木工芸のイノベーション事例研究 中川氏リードによる伝統工芸の現場事例と現場体験：工芸論の構想と理論化に至る具体的な事例分析 → 体験学習を経てこれからの工芸の洞察と提案</p>
12. 12月7日(日) 90分	<p>工芸論 実践事例編4：朝日焼工芸 GO ON 松林氏・中川氏担当 (DBS 崔補佐)</p> <p>朝日焼工芸のイノベーション事例研究 松林氏リードによる伝統工芸の現場事例と現場体験：工芸論の構想と理論化に至る具体的な事例分析 → 体験学習を経てこれからの工芸の洞察と提案</p>
13. 1月18日(日) 90分	<p>工芸論 実践事例編5：京金網工芸 GO ON 辻氏・細尾氏担当 (DBS 崔補佐)</p> <p>京金網工芸のイノベーション事例研究 辻氏リードによる伝統工芸の現場事例と現場体験：工芸論の構想と理論化に至る具体的な事例分析 → 体験学習を経てこれからの工芸の洞察と提案</p>
14. 2月15日(日) 90分	<p>工芸論 実践事例編6：竹工芸 GO ON 小管氏・八木氏担当 (DBS 崔補佐)</p> <p>竹工芸のイノベーション事例研究 小管氏リードによる複数の伝統工芸の成功・失敗事例について講義：工芸論の構想と理論化に至る具体的な事例分析 → これからの工芸の洞察と提案</p>
15. 3月15日(日) 90分	<p>総括講義と全員議論、まとめ</p> <p>京都の伝統工芸産業の今後の展望と、経営学や哲学を筆頭とする学際的視座からその戦略的重要性と潜在性について総括的講義を実施する。その後、受講生全員と講師による議論を経て理解を深め、京都伝統産業のこれからのイノベーションへの取り組みとその方向性についてさらなる知見を導出する。</p> <p>【課題】本コースを総括しての感想文と提案を作成 (A4、1-2枚)、担当教員に提出 (コース終了から1週間以内、締め切り詳細については授業中に再度告知する)</p>

< コース参考文献：追加の図書・学術論文 / Course References >

1. 細尾真孝『日本の美意識で世界初に挑む』2021年、ダイヤモンド社
2. 松林豊斎『つなぐ心、つなぐ技：朝日焼の四百年』2016年、里文出版
3. 八木隆裕『共感と商い：創業明治8年つくるモノは当時のままの茶筒』2023年、祥伝社